

“Heart to Heart”

第12巻 第1号 (No.35)

発行日 2017年7月1日

心から心へ わちあう あたたかさ

武蔵野東教育センター所長
計野浩一郎

自己認知を高めるために

目次:	
自己認知を高めるために	1
療育プログラムのようす	2/3
コラム:言葉の意味と話し手の意味(1)	4
ご案内	4

新年度の初めはさまざまな環境変化があることに加え、園や学校によっては運動会や校外学習などもあり、子どもたちにとっては4月からの数か月はストレスのかかる日々が続いた時期だったと思います。センターに通われている子どもたちの中にも環境の変化に心と体のバランスが取りづらくなり、突飛な言動をしてしまったりすることがあります。しかし、このような状態がいつまでも続くわけではなく、数回通ってくると表情も柔らかくなり、あんなに騒いでいたのは何だったのかと思うほど、ケロッとして「楽しかった。もっと、いたい。」などと言うようになるのが、いつもの恒例行事のようになっています。保護者の方々にとりましても、子どもたちを支えることに少なからず苦慮したことがあったのではないかとお察しいたします。

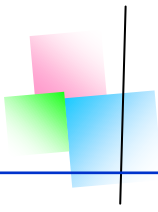
初めて取り組むことや新しい環境に飛び込んでいくことに関しては、誰もがストレスを感じます。子どもたちは、その成長過程において自己主張をすることから始まり、それに対する外からの評価等により周囲の状況を理解し、自己認知できるようになっていきます。自己認知ができるようになるまでの過程において、人間関係の軋轢や環境の変化で心と体がアンバランスな状態を招き、いろいろな形でその症状が出現し、周囲の人たちを戸惑わせることになってしまっているのです。特に、こだわりが強く、環境のちょっとした変化に対して不安や恐怖感を抱きやすい一部の子どもたちにとっては、負荷のかかることが多い時期でもあります。外からの評価等に対してストレスがかかってもその状況に応じた身の処し方を学んでいく途上であり、越え

なくてはいけないハードルでもあります。

状況に応じた身の処し方等を身につけていき、自己認知できるようになるためには、周囲の支援者が日々の生活において意図的に体験を踏ませることが大切です。周囲の状況把握や人間関係を構築するために必要なことが理解できるだけの認知を高めていく必要があります。生活の中で体験を多く踏ませるためには、まずスケジュールを見直し、どのような生活になっているのか確かめることをお勧めいたします。その際に「お手伝い、学習、運動、関わり遊び」の時間の量と内容の吟味をしていただくとよいと思います。短い時間でよいので、毎日続けることが重要なことだと考えます。たとえば、学習でしたら学校は40分の授業だから家でも40分座って勉強できるようにしなくてはいけないではなく、学んでいる内容が一つでも多く身につけば時間は関係ありません。そうやって少しずつできることを増やしていくことを目的に取り組んでいただけると、子どもたちの認知は確実に積み上がり、今の自分がおかれている状況を理解しながら生活していくことができるようになってきます。特に幼少期においては、無理をせず一步一步確実にできることを増やして行ってほしいと思います。

もうすぐ、子どもたちが楽しみにしている夏休みを迎えます。保護者の方々にとりましては、少し悩ましい時期なのかもしれませんが、ゆっくりとじっくりいろいろなことが取り組みやすい時期でもあります。ストレスがたまらない程度のスケジュールをお子さんの自己決定を促しつつ一緒に作成して、有意義な夏休みをお過ごしください。





療育プログラムのようす 【各教室・言語・ラーニングプログラムの様子】

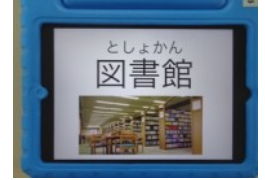
幼児絵画造形教室

今年も恒例の「ひがしナルド」を楽しみました。様々な廃品（持ち帰り用のコーヒーの蓋、チョコレートの空き箱、紙コップ）を使ってハンバーガー、ポテト、ジュースを作りました。「H」マークの入った新聞紙の帽子をかぶったら開店準備OK！「いらっしゃいませ！」「いかがですか！」と大きな声で保護者の方々をお迎えしました。（本田）



「いらっしゃいませ！」

ラーニングプログラム 主に中学生以上を対象に身近な漢字（施設名や位置・方向など）の読みについてタブレット端末を用いて学習しています。写真やイラストがアニメーションで表示されるので、繰り返し練習しても、飽きずに興味を持って見ることができています。アニメーションなど視覚的な情報に興味を持ち、集中できる子が多いので、今後もタブレット端末を活用していきたいと思います。（大澤）



身近な漢字の学習

言語プログラム

季節に関連する絵を使いスリーヒントゲームを行っています。いろいろなものの名前は知っていても、それらの特徴を考えてヒントとして相手に出題することは少し難しいようです。そこで、読み札を用いてヒントを出しやすいようにしています。繰り返し練習を重ねると、読む札にない新しい情報も含めて、絵を見ただけでヒントを考えられるようになってきました。（服部）



夏に関連するもののヒントを出そう

ダンス教室 夏の暑さに負けないよう体力づくりに励んでいます。基礎運動では、ストレッチとヨガ体操をゆっくり丁寧に行い、自分の体の状態を確認することができました。両腕を真っすぐ上に挙げるポーズでは、「ひじを耳につけてごらん」とわかりやすく伝えると、どの子もひじをピンと伸ばすことができました。今月の課題であるスキップとギャロップの習得も順調です。この調子で、夏休みまでにさらなるステップアップを目指したいと思います。（新堂）



「ひじを耳につけてごらん！」

体育教室 傾斜のある緑の壁がボルダリングに増設されました。子どもたちは新しい壁に興味津々で登り始めますが、上手に登れる子にはいくつか特徴があるのがわかります。それは、肘を伸ばして体を支えていることと壁から体を離していることです。肘を伸ばすと腕の力だけでなく足にも体重を分散できます。また、壁から体を離すことで視野が広がり、次にどのホールドをつかめばよいか計画が立てやすくなります。「さあ、今日はだれが緑の壁に登れるかな？」（鈴木）



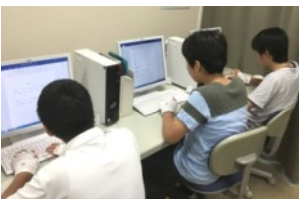
緑の壁

幼児体育教室 「ポックリ」の練習をしています。最初は、バランスを取りながらすり足でゆっくりと進んでいた子どもたちも、フープやマットなどの障害物を超えていく経験をすることで、紐をしっかりと持って足をあげて進むことができるようになってきました。特に屋上の天然芝で行ったポックリは、障害物以上に足が取られやすかったものの、転びそうになりながらも持ち直して進んでいく姿に成長を感じました。（久留）



紐をしっかりと持って前進

コンピュータ教室 基本的なローマ字入力や文章の入力など、タイピングスキル向上のための活動を行っています。生徒は皆特製の手袋を着用し、指の色とキーボードに貼られたシールの色が合うようにタイピングをしています。その結果、5本指で正確にタイピングができるようになり、初めのうちは入力に時間がかかっていた生徒も、速く正確にタイピングができるようになりました。（吉田）



手袋をつけて練習中

SST教室 3、4年生は「連想ゲーム」に取り組んでいます。指定されたテーマから連想される言葉を答える活動です。最初は、自分と同じ言葉を連想した人が何人いるか確認しました。後半は、クラスの友だちがどんな言葉を連想するか想像し（夏にみんなが行く場所といえば？→海など）、友だちと言葉を揃えることができるかに挑戦しています。（宮川）

れんそらゲーム	
◆ それぞれのテーマからおもしろいものを書いて、友だちと意見をこうかんしよう！	
① かわいいうつろつといえは？	
・ 自分の意見	【 】
・ 同じだった人	【 1人 】
② まるいものといえは？	
・ 自分の意見	【 】
・ 同じだった人	【 1人 】

丸いものといえは？



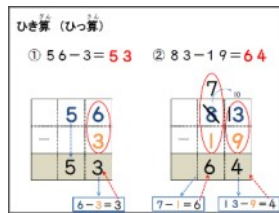
【スクールプログラムの様子】

幼児 年長では、担当者が黒板に描いた絵を見て「模写」する活動を行っています。黒板からの模写は、就学後の板書の書き写しにつながる活動として繰り返し練習をしています。「私はカニさんにまつ毛をつけて女の子にしたよ」「僕のはとっても大きい！」など、子ども達の自由な発想も見られ、楽しみながら活動に取り組むことができています。(猪野)



よくみてかこう！

2年生 算数では、「引き算の筆算」の学習をしています。繰り下がりの手順を視覚的にわかりやすいようにスライドショーを活用しながら提示し、理解を促しています。また並行して繰り下がりに必要な計算スキルを一人ひとりに合った個別のプリントを使って練習しています。2年生では足し算、引き算、かけ算と計算の単元が多いので符号への着目も意識させています。(宮川)



引き算筆算の解法



アジサイの花作り

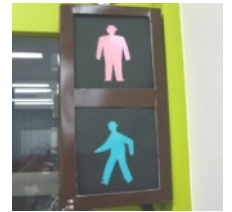
4年生 折り紙で「アジサイ」を作成しています。1/4サイズの折り紙を使い10個程度の花を折り、葉は普通サイズの折り紙で折ります。小さいサイズの折り紙を折るのに時間がかかりましたが、作っている間に折り方を覚え自分の力で花を折ることができるようになる児童が多くなりました。手本を参考に花のレイアウトを決め、のりではって完成です。(藤本)

6年生 『円の面積』について学習しました。「円の面積＝半径×半径×3.14」という公式を覚え、計算問題に取り組みました。基本問題に慣れたところで、半円の面積や円の一部分の面積など応用問題にも挑戦しました。一見すると難しそうな問題ですが、「元の円の面積を2で割れば半円の面積になるね」などと、クイズを解くように楽しんで学習に取り組むことができました。(吉田)



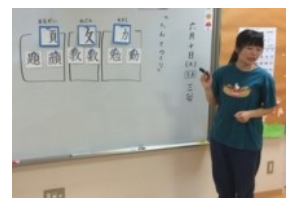
円の面積

1年生 入学から3カ月。子どもたちは元気に学校に通えているようですが、個人懇談でも話題になったことですが、子どもに横断歩道の信号の見極めをうまく指導できないという声がありました。そこで、信号機を作り、繰り返し練習をしました。一人ひとり信号を確認して渡る練習ができ、サインを意識できるようになってきました。少しでも実際の生活に役立てればと思います。(宮下)



信号をよく見て渡ろうね

3年生 国語で「へんとつくり」の学習を行っています。漢字の中に隠れている部首を探し出したり、ハ(うかんむり)を見て「カタカナのウみたい…！」などと形から部首の名称を推測したりと、子どもたちは興味を持って学ぶことができました。子どもの興味を育てながら学習を進めていくことで、より意欲的に取り組むことができています。(久留)



漢字のへんとつくり



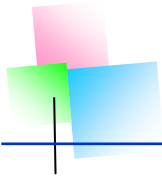
シェイカーバス

5年生 スクールプログラムの音楽では「シェイカーパス」を行っています。全員で円になって座り、リズムに合わせて隣の友だちに『シェイカー(振ると音が鳴るボールのようなもの)』をパスしていきます。右の人に渡すと同時に左の人から受け取らなければなりません。そのため、落とさないようにパスするには、自分の左右にいる友だちの動きを感じ取り、呼吸を合わせることが重要です。(大澤)



世界地図を見て学習

中学生 『世界の地理と各地の特色』という単元を学習しています。世界地図を見て州や大陸などについて確認し、それぞれの地域の特色について学びました。他国の言葉や文化の違いについて映像や写真を見て学習していく中で、生徒たちは日本との違いに驚きながらも「イタリアに行きたい」「ピラミッドを見てみたい」などと、興味を持って学習に取り組んでいました。(吉田)



コラム 自閉症の研究から (2)

言葉の意味と話し手の意味 その1

松井 智子 (東京学芸大学教授)

私たち人間は、日常のできごとに意味付けをしたがる動物のようです。たとえば、自慢にしていた長い髪を、友だちが突然切ったと聞かされたとき。付き合いはじめた彼氏と別れたのかな？ 何か新しい出発の印なのかな？ 友達が髪を切ったことに、自分なりの意味をつけようと思いをめぐらすのは、意味づけの欲求がある証拠です。友だちは、ただ夏に向けて髪を短くしたいと思っただけだったかもしれません。つまり、髪を切ることに、それ以外の意味は何もなかったということになります。もともと特段の意味を持たないできごとにも、意味を付けようとする習性が、私たちにはあるようです。

私たちの意味付けの習性は、話をして相手の表情や声の調子が急に変わったりするのを見逃しません。いつもは楽しそうに話している人の表情や声の調子が暗いとき、何か

悲しいこと、悩んでいることがあるのかな、と推測します。今まで笑顔で話を聞いてくれていた相手の表情が急に暗くなったら、今自分が何か変なことを言ったかな、と気になります。

特段意味のないかもしれないものにも、意味を付けずにはいられない。そんな私たちの意味付けの習性とは別に、もともと特定の決まった意味があるからこそ使えるものもあります。言葉です。ひとつひとつの言葉には、それが指す特定の物や動作や様子があります。ご存知のとおり、辞書にはそれぞれの言葉の意味が記されています。そしてその意味を恣意的に変えることはできません。

ただ、会話で相手があなたに何か言ったとき、相手の使った言葉の意味と、相手が思っていたことが同じとは限らないことはご存知

のとおりです。むしろ、違うことがほとんどです。そんなとき、私たちの意味付けの習性が役立ちます。友だちが言葉では「すべて順調にいっているよ」と言っているのに、視線が下を向いていたり、声が低かったり小さかったりすると、本当に順調にいっているのか疑ってしまうでしょう。こういうとき、私たちは相手の話している様子や、背景知識を含めた文脈を手がかりにして、言葉そのものの意味とは別の意味を、話し手の意味として理解しようとしています。

自閉スペクトラム症の場合、文脈を手がかりにして言葉そのものの意味とは別の意味を、話し手の意味として理解することは難しいと言われていています。今回はそのことについて書きたいと思います。



このコラムは4回シリーズでお届けしています。

保護者勉強会のご案内

当センターのスタッフが受講者の保護者の皆様に以下の日程でお話しさせていただきます。

第2回 9月14日(木) 10時～12時

「幼児期～思春期の自閉症スペクトラム児の発達について」 大澤徹也

「生活スキルを高めるアイデア教材」 宮下さち子

第3回 11月30日(木) 10時～12時

「広げようコミュニケーションスキル」(歌って！踊って！ゲームを楽しもう！) 計野ちあき 服部素

「子どもの運動機能の発達」 鈴木裕磨

武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

リニューアルしたホームページをご覧ください

<http://www.musashino-higashi.org>



セミナーのご案内

今年度後半のセミナーを以下の通り実施いたします。ご希望の方はお早めにお申し込みください。

II. 平成29年11月7日(火) 10時～12時

「自閉症スペクトラムの理解と指導・支援」

砥柄 敬三 (帝京大学 教職大学院教授)

III. 平成30年3月2日(金) 10時～12時

「みんな違って みんなイイ」～脳科学からみた障害特性の理解～

室山 哲也 (NHK解説委員)

